

作品名：SB-90T

解説：BC方式で小口径ユニットを使用してどこまで低音が出せるか試してみた。

- ・タンデム駆動のBC方式のダブルバスレフ構造。
- ・使用ユニット
アウター：スキャンスピーク 5cm 5F/8422T03(2013年ステレオ誌付録)
インナー：フォステクス 8cm組み立てキット P800(2011年ステレオ誌付録)
- ・結線は並列の同相接続。インピーダンス 4Ω。
- ・バッフル板幅は 90mmでアウターユニットサイズからすれば 75mm位にして音場感に有利にしたいところだがインナーが 8cmなので。
- ・ユニットの性格からすればアウターとインナーは逆の方が良いかもしれない。(インナーをハイコンプライアンス型に)
- ・セオリー無視でアウターが5cmとインナーが 8cm。その間の空間は立方体。空気室の体積比は 4程度。第二ダクトは極端に長くしている。
- ・ダクトの風圧から、ロードが掛かりバスレフはよく効いていると思う。
- ・第二空気室にリフレクターを付けたが効果は不明。強度アップには寄与。
- ・見た目を裏切るそこそこの低音の伸びがあるが、能率が低く音量に限界がありこのスケールではオーディオとしては成立していないと思うのでこの組み合わせはこの実験機に留める。

製作過程：タンデム駆動のダブルバスレフだが構造がシンプルで作りやすく強度もある。

- ・板はホームセンターで売られているラワンの 15mm厚の合板。
- ・側板以外のパーツは幅を統一しているので板取りがし易く組立精度を出し易い構造。
- ・組立は全てイモ継ぎで木工ボンド接着。
- ・実験機なのでパーツにつぎはぎあり、仕上げはしていない。